

最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索

# New Wind

体験活動の変わらない価値、  
そして新たな感動へ



特集1 主体性を育む教育事業の試み  
特集2 自然の家に家族で泊まろう!



独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県 妙高市大字関山 6323-2  
TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325  
<https://myoko.niye.go.jp/>



# 変わらないために 変わり続ける

— あえて MYOKO —

国立妙高青少年自然の家  
所長 水澤 哲



現代社会は「VUCA」という言葉で表されるように、変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧性(Ambiguity)が増しています。このような環境においては、単なる知識の蓄積ではなく、予測困難な状況に柔軟に対応し、自ら考え、実際に行動する力が求められます。この力は体験活動によって強く引き出され、鍛えられ、伸びるものです。国立妙高青少年自然の家は「体験の拠点」として、時代の風を取り入れながら、これからの良質な体験の提供に努めて参ります。

自然の家には、その名のとおり豊かな自然を活かしたプログラムがたくさんあります。グリーンシーズンは源流探険やオリエンテーリング、妙高アドベンチャーやみどりの学習等の野外プログラムがあり、ホワイトシーズンはスキーやスノーシューハイク、雪灯ろう作りや深雪探険など、この地域に特有の雪を使った親雪プログラムがあります。自然を素材や題材にしたクラフト活動も、一人ひとりの思いが加わって自分らしい作品となり、心に残ります。今年も、多くの主催事業を実施し、長期移動型で統合型キャンプ4年間の総まとめキャンプ、ICTを取り入れた新しい自然体験の形を探るキャンプなどに挑戦しました。妙高青年会議所や医療関係者、上越国際交流協会、信越五岳トレイルランニングレース事務局等の関係団体との連携を通して、青少年の「今」に正対した取組を目指しました。どの事業においても子供たちが自分の限界に挑み、仲間と協力しながら一体感や達成感、時に感動を味わう姿を間近で見ることができました。

自然の家では、前述のプログラムを中心とした活動に加え、「早寝早起き朝ごはん運動」の推進などに代表される規則正しい生活を、仲間と一緒に送ることが出来ます。共に過ごす中で、友達と語り合ったり、一緒に大浴場に浸かったり、ご飯を食べたりと、何気ない一瞬一瞬が心の距離をぐっと縮めます。また、「思いやりのリレー」という言葉があります。これは、使った場所や道具をきれいにして返却する、後から来た団体とも親しく挨拶を交わすなどの、次の人のことを考えた行動を促す合言葉です。団体が到着した際の職員挨拶でも必ず伝えていきます。清掃や整理整頓、挨拶等の日常的な活動を価値付け、思いやりの気持ちを込めた取組にすることで、他者の役に立つ、社会の一員であることを実感できます。このように、自然の家には日常に直結する良質な生活がたくさんあります。

近年では費用対効果という尺度で人との距離を意識する機会が増えたように思います。無理や無駄をなくしたいと考えたり、人や物が移動することによるお金や時間のパフォーマンスを考えたりすることもしばしばです。しかし、一見、労力がかかっても無駄のように見えても、丁寧にじっくりと関わることで新しい価値に気付くことがあります。次代を担う青少年には、変動、不確実、複雑、曖昧な時代にあっても、実際に心と体を動かして体験し、自分らしく生きるために必要な力を身に付けてほしいと考えます。

そんな今だからこそ、あえて時間と労力をかけ、自然の家まで足を運んでみませんか。良質な体験を通して素敵な自然と出会い、温かな仲間と出会い、新しい自分と出会いませんか。国立妙高青少年自然の家は、いつまでも変わらずここに在ります。そして変わらずに在り続けるため、今後も時代の風を取り入れながら変わり続けます。



自然の家開所時からご縁のある新潟県三条市の須藤風屋(いかや)さんから「三条六角巻風(いか)」3枚を寄贈いただき、本館玄関ホールに飾りました。10月13日の感謝祭では、「リアルとデジタルの融合」をテーマに掲げ、三条風協会による「風揚げ体験」「風の色付け」と、超体感型AR(拡張現実)スポーツ「HADO」を実施しました。



# 主体性を育む教育事業の試み

特集1

現行の学習指導要領では、児童生徒が新しい時代に求められる資質・能力を育む

ために、「主体的・対話的で深い学び」の実現が目指されています。3つの要素の1つである「主体的な学び」の視点として、見通しをもって、粘り強く取り組む力を身に付けたり、自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育んだりすることが求められています。今回は、当施設における、子供たちの「主体性」を引き出す教育事業について紹介します。

## 令和6年度文部科学省委託事業 チャレンジキャンプ2024 仲間と共に踏み出す「自分の一歩」

事前キャンプ/  
令和6年7月6日(土)  
~7日(日)  
本キャンプ/  
令和6年7月27日(土)  
~8月4日(日)



「チャレンジキャンプ2024」は、海と山に近い国立妙高青少年自然の家を拠点とし、海から山へと約100kmの道のりを自分の力で踏破する統合型キャンプです。一人ひとりが自己を見つめ、他者と協働しながら課題に立ち向かうことで、自己肯定感を育み、これからの生活につながる「自分の一歩」を踏み出すことを目指して、様々な活動に挑戦します。特に今年は、子供たちの主体性を引き出す観点から、ソロテント泊、ソロ飯をプログラムに取り入れ、「自分の力でやり抜く」「一人になることで仲間の大切さを知る」といった成長の機会を増やすように工夫しました。

キャンプは、事前キャンプの1泊2日に本キャンプの8泊9日を加えた計11日の日程です。今回は小学5年生から中学3年生の男女14名が集まりました。

事前キャンプは「出会いのステージ」と位置付け、初めて会う参加者、スタッフが打ち解け合い安心して本キャンプに臨めることをねらいとしました。また、保護者も一緒に参加し、キャンプスキルの研修や説明を受けることで安心感を得ることができました。

事前キャンプから3週間後、いよいよ本キャンプです。日本海を臨む船見公園で開会式を行い、9日にわたるチャレンジキャンプ2024がスタートしました。

1日目~3日目は「協力のステージ」です。3日間で約57kmの道のりを、地図を頼りに仲間と励まし合いながら、歩いて移動しました。

4日目~5日目の「自立のステージ」では、野尻湖でカヤック・SUP体験を行い、自分で選択したアクティビティを楽しみました。また、一人でテント泊、野外炊

事に挑戦し、一人で活動する時間を通して主体性を育みながらも仲間の大切さを感じる時間にもなりました。

6日目~7日目は、「挑戦のステージ」です。チャレンジキャンプ最大の挑戦、火打山・妙高山の縦走登山を行いました。仲間と声を掛け合いながら山頂を目指し、無事全員で山頂に立つことができました。子供たちは疲れがある中でも、最後までやり遂げた達成感と充実感に満ちあふれていました。

8日目~9日目の「未来につながるステージ」では、キャンプ全体を振り返り、自分自身の成長や頑張りを画用紙にまとめ、閉会式で活動の内容を保護者に伝えました。どの子供たちも自信に満ちた顔で堂々と活動内容を紹介しました。

チャレンジキャンプ2024を通して、日を追うごとにたくましく成長する子供たちの姿がありました。自分の力で課題や困難を乗り越えたこと、仲間と共に困難な課題を乗り越えたこと。この自信を胸に、「未来につながる一歩」を一人ひとりが踏み出してくれることを願っています。

## チャレンジ！ICT野宿

「Society5.0時代を生き抜く、リアルなバーチャル活用スキルを身に付けよう！」

令和6年10月19日(土)  
~20日(日)



自称、「最先端の主体性を育むキャンプ」として、1泊2日の日程で事業を実施しました。当日は、あいにくの雨天でしたが、「ICT」と「野宿」という一見相容れない2つの言葉が入ったこの事業に興味をもってくれた小学5年生から中学3年生までの10名の参加者が集まりました。

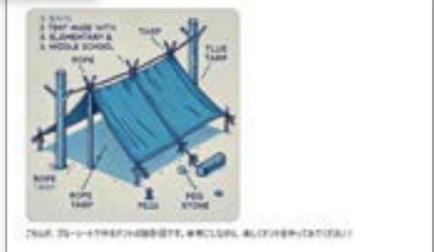


本事業では、必要最低限の物資を使用してテント設置や食事作りをしますが、与えられた物資の使用・活用方法は、生成AIなどのICT技術を使って情報収集し、試行錯誤を繰り返しながら、活動を行います。単なる調べ学習ではなく、調べた内容を実践することによって、知識を経験と結び付けることができ、また、道具の使い方など通常は指導者から「教えられる」ことも参加者自身が情報収集をして活動することから、「最先端の主体性を育むキャンプ」であると考えています。

写真は実際に生成AIを活用したPC画面と建てたテントの様子です。また、火起こしの場面でも、①とりあえず自分たちでやってみる! ②難しい... ③火おこし動画をみつけて視聴 ④試してみる ⑤火が着いた! という流れで、「自ら情報収集をして実践する」という主体的な活動を実践していました。

「テントの作り方を調べて、それをもとに立てる場所や形を変えながら拠点を作れた」などの感想があり、得た情報を活用して実践から応用までを主体的に行っていたことがうかがえました。

文部科学省は「リアル」×「デジタル」の最適な組み合わせによる価値創造的な学びを進めています。本事業は、まさに「これまでの体験活動」と「デジタル」を組み合わせ、これまで以上に主体的な体験活動の可能性を含んだ事業ではないかと考えています。



# 全国青少年体験活動推進フォーラム

誰一人取り残さず全ての青少年に体験活動を

令和6年11月23日(土)  


今回のフォーラムは、「誰一人取り残さず全ての青少年に体験活動を」のテーマを掲げ、青少年教育指導者だけでなく、幼児から小学校低学年を含む家族にまで対象者を広げて開催しました。

第一部の基調講演・体験活動では、「ミツル&りょうた」の両氏からプレゼンターを務めていただき、歌やダンスを交え、子供にとっては体験活動の楽しさを、青少年教育指導者にとっては体験活動から得られる学びを、体験を通じて実感する機会を提供していただきました。

第二部のセミナー&ワークショップでは、幼児の森あそび部会、環境学習部会、ICTと体験活動部会の各部会に分かれ、実際に活動プログラムを体験したり、コロナ禍を経て、未来に向かって体験活動を推進していくための道筋について活発に意見交換したりしました。本フォーラムで得られた知見と青少年教育指導者の連携・つながりを起点に、全ての青少年に多様な体験活動の魅力を伝え、誰一人取り残さず体験活動を届けていきたいと思えます。



## 妙高で活躍する ボランティア

今年も様々な事業が実施されました。子供たちが意欲的に活動できるための手助けとして、たくさんの方の学生ボランティアのみなさんが参加しました。どんな思いでボランティアとして参加したのか、聞いてみました！



●チャレンジキャンプ 2024  
 青木 麻乃 (まっきー)

9年前に自分も当時の長期キャンプに参加し、その時のボランティアの方に憧れたことをきっかけに、今回ボランティアとして参加しました。子供たちが自分で考えて行動できるよう、「〇〇さんはどう思う?」といった声掛けに気を付けたり、すぐには助言せず子供の行動を見守ったりしました。



●チャレンジ! ICT 野宿  
 塩入 七海 (ななみん)

子供たちが自ら考え行動できる内容で、子供たちの成長をサポートしたいと思い参加しました。余計な口出しはせず、見守りや子供たちに気が付きを与えられるような声掛けをしました。



●親子トレイルランニング 体験会  
 杉田 真桜 (すぎたま)

初めて会った家族同士が、励まし合い応援し合いながら活動している姿に魅力を感じ、今年も参加しました。直接的に指示するのではなく、間接的に子供たちが分かるように伝えることも大切だと思い、「自分から」を意識し、挨拶したり応援したりしました。



●キッズアドベンチャー 源流探検  
 新井 陽奈 (はるぴょん)

子供たちと一緒に源流の魅力を知りたいと思いを加えました。子供たちが自ら発見できるように「水に触ってみて!」「この石のかけに生き物がいるかもしれないよ」とコメントを出してサポートしました。



●超スーパーウルトラファンタスティック MYOKO チャレンジフェスティバル  
 沼田 祥英 (ぬまちゃん)

色々なことにチャレンジしたいと思いを加えました。ボランティア自身が楽しんで活動していると、子供たちも自然と動き出すと考え、私自身が積極的に楽しんで参加しました。

ボランティアのみなさんの関わりで、子供たちが少しずつ成長したり、笑顔で活動したりする姿が見られました。子供たちの成長を支えてくれるボランティアのみなさん、これからもよろしくお願いします!

# おすすめ活動 プログラム



草そり



バーベキュー



森散策



沢遊び



クラフト



ネイチャークラフト



焚き火体験



チューブそり



草花遊び

●詳しく知りたい方はこちらから

国立妙高

検索

妙高かんたん宿泊プラン申込み  
(チラシハ)



## 活動プログラム紹介



## 施設周辺観光情報



# 自然の家に 家族で泊まろう!

特集  
2

「自然の家は、小学校や中学校の自然教室で泊まるところだね」「泊まってみたいけど、家族は受け付けてないでしょ?」・・・そんなふうに思っている方に朗報!国立妙高青少年自然の家は、家族で宿泊することができるんです!

子供たちが日常生活で親しむ機会が少なくなった自然の中で体験活動を、より多くの家族に、もっと気軽に楽しんでもらいたい。そんな思いから、妙高自然の家では、家族での宿泊利用を推進しています。

その取り組みの一つが、令和4年からスタートした「妙高かんたん宿泊プラン」、通称「かんたんプラン」です。かんたんプランでは、初めて利用する家族の申込みのハードルを下げるため、宿泊予約の手続きを徹底的にシンプルにし、従来必須だった書類手続きを廃止しました。利用申込みは、「電話での日程確認」と「ウェブフォームからの必要事項の送信」のわずか2ステップで完了します。また、利用料金や日程表のメールでの事前の連絡、当日のチェックイン手続きでの丁寧な説明など、職員による手厚いサポートも大きな特長です。開始から2年で延べ112組のご家族からご利用いただき、子供たちから「ホテルを見つけた!」「星がきれいだった!」など多くの喜びと感動の声を聞くことができました。

春から秋には森林浴が楽しめるオリエンテーリングや星座観察、冬には豪雪地帯の特色を生かしたそり遊びやかまくら作りなど、四季折々の豊かな自然体験がここにはあります。家族で焚き火を囲みながら団らんする夜は、きつと特別な思い出になることでしょう。初めてでも安心のかんたんプランで、ぜひ自然の家に泊まってみませんか?

ねえ、今度、家族でどこか行こうよ!

いいね。そうだ!国立妙高青少年自然の家に泊まりに行くのはいかがかな?家族でも簡単に利用できるって聞いたよ。小学生の時に利用したけど、もう1回行ってみたいなあ。

HPを調べてみよう!本当だ!申込みも電話1本とフォームの入力で完結できるね!

プログラムの種類も豊富だね。BBQやハイキングもできるみたいだよ。冬はスキー場に行くこともできるみたいだ。普段、家族でなかなか自然に親しむことができないからちょうどいいね。

近くの観光施設に行くこともできるみたいだね。見て見て!宿泊中のご飯は施設の食堂を利用したり施設外で外食もできるよ!お風呂は近くの温泉に行ってみるのもいいなあ。

子供の年齢に合わせて楽しめそうだね。

わくわくするね!早速、利用できるか連絡してみるね。

# みどりの学習



国立妙高青少年自然の家では、SDGsの目標達成と持続可能な社会の実現を目指し、ESD（持続可能な開発のための教育）として位置付けた森林環境学習「みどりの学習」を年間を通して実施しています。

みどりの学習には、活動のねらいや時期などに応じた多種多様な活動プログラムが用意されているので、指導者のイメージや子供たちの実態に合わせた活動計画のデザインが可能です。

子供たちが五感を働かせながら「ホンモノ」の自然と関わり、自然の面白さや不思議さに気付いたり、興味関心を高めたりする体験活動をつくり、主体的、対話的で深い学びの実現を目指します。

## ※ 森の活動

● 森林を歩き、出会った生き物を観察したり記録したりする中で得た気付きを基に探究を深めます。

● 本プログラムを中心に、子供たちの問題意識や設定した課題に合わせてよりねらいを焦点化した活動プログラムへと展開させることができます。



## ※ 源流探険

● 水の循環をキーワードに、森林環境と空気、水、生き物との関わりについての考えを深めます。

● 沢を上流へと上りながら、水生生物や周辺の森林を構成する樹木や草花、流水による浸食の様子、火砕流の露頭等を観察します。



## ※ 里山体験活動

● 里山に親しむ、地域の自然環境保全について考える、などねらいに応じた活動の展開が可能です。

● 里山の草花を使った遊びや遊びに使う道具づくり、里山の手入れ、木の実や木材の活用などを通して、里山の恵みを実感できます。



## ※ 森のクラフト

● 森で出会った葉や花、枝、木の实などの自然物の特徴を生かして世界に一つだけの作品を作ります。

● 作品作りを通して、森林の豊かさや、森林の恵みを実感し、森林環境に親しみながら持続可能な関わり方について考えます。





## 妙高ミミチャンネル 自然の家 公式動画

妙高ミミチャンネル自然の家・チャンネル登録者数 197人・32本の動画  
国立妙高青少年自然の家は、青少年に家庭や学校では見られない様々な自然体験を  
myoka.niye.go.jp、巻1様のリンク

チャンネル登録

### ● 妙高ミミチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCqPHP4Vfw3nccOfutGyQtaA/featured>



## 「妙高ミミチャンネル」をご紹介！

### 国立妙高青少年自然の家公式YouTubeチャンネル

「妙高ミミチャンネル」では、施設をよりわかりやすく、そして楽しんでご利用いただけるように役立つ動画をたくさん配信しています。

#### 主な配信内容

● **施設の利用方法**  
お風呂の利用や野外炊事など、初めて利用される方でも安心できる説明動画が充実しています。

● **活動プログラムの紹介**  
野外オリエンテーリング、源流探検やクラフト活動、夏に人気のキャンプファイアーなど、妙高で体験できる多彩なプログラムを紹介しています。

● **教育事業**  
過去に実施した教育事業の様子を見ることができます。

#### Let's watch!!

活動プログラムの詳細や施設の利用方法など妙高自然の家での体験をより快適に、そして皆様の「オモイをカタチに」する



9月22日に日帰りで実施した「超スーパードラゴンクエスト」は、子供たちに学校や家庭では体験できないようなダイナミックな活動を提供することを目的に企画されたイベントです。この企画および運営には、妙高青年会議所の皆様にもご協力いただき、共同開催として実現しました。企画段階から子供たちに興味をもってもらえるように、事業全体のストーリー性を大切にしました。今回は、宇宙海賊が自然の家に爆弾を設置し、5つのチャレンジをすべてクリアしなければ爆弾を解除できないという設定にしました。

参加者は10人1組のチームに分かれ、5つのブースに挑戦しました。「謎解きチャレンジ」ではクイズや宝探しを、「DIYチャレンジ」では頸南建築組合の皆様のご協力のもと、ベンチを作りました。「バトルチャレンジ」ではおもちゃの

レーザーを使って対戦し、「サイエンスチャレンジ」では巨大なシャボン玉の中に入り、「ファイヤーチャレンジ」では火起こしに挑戦しました。どのブースも参加者同士で協力しないとクリアできない内容で、チームワークを育む工夫がなされました。当日は90人の小学生が参加し、様々なチャレンジを通して友情を深めることができたよつです。「友達ができて嬉しかった。」「また来年も参加したい。」「といった感想が多数寄せられました。妙高青年会議所の皆様のご協力もあり、充実した体験活動を提供することができました。

ためのサポートをします。ミミチャンネルのご視聴、ご登録をよろしくお願いいたします。

#### 職員おすすめ！3選動画

##### 「源流探検(野外活動)」

夏に人気のプログラムである源流探検の様子を動画で見ることが出来ます。水に触れる、生き物や植物を見る、自分の力で沢を登るなど五感を刺激する冒険を体験してみませんか？

##### 「自然の家でうどん打ちに挑戦！」

職員がうどん打ちに挑戦！この動画を見れば誰でも「うどんマスター」になれるかも!?

##### 「感謝祭」

10月に開催された教育事業「感謝祭」の様子です。地域の方々に来場いただき食事や体験ブースなど、様々な活動を楽しみました。令和6年度は目玉企画としてARx SportsのHADOや三条風合戦より風揚げを実施しました!

## 超スーパードラゴンクエスト

## MYOKOチャレンジフェスティバル





# 妙高を支える人たち



## 尾崎公子さんが 文部科学大臣表彰

このたび、当施設の妙高ネイチャープログラムの指導者である尾崎公子さん（NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会所属）が、長年にわたり当施設の発展に寄与された功績を称えられ、社会教育功労者として文部科学大臣から表彰されました。

尾崎さんは同指導者会の外部指導員として、平成25年6月より当施設での活動に関わり、グリーンシーズンは源流探険、ホワイトシーズンは、主にアルペンスキーを指導しています。五感を使った自然体験やスキー活動を通して、子供たちの自己有用感を高め



尾崎 公子さん

ほしいという思いを大切にしているそうです。

また、地元の小学校のクラブ活動の講師として、校庭と続いている丘に生息している樹木、草花を使っているゲームやクラブ制作に携わっているほか、上越市地域学校協働活動推進員として、夏休み中の子供の居場所作りにも取り組むなど、様々な機会を通じて児童への自然体験の指導に尽力されています。

昨年の夏、体験活動の格差をなくす取り組みとして子供向けキャンプを開催したそうです。「多くの子供たちに学びや気付き、楽しさを見付ける機会を提供したい」と語る尾崎さん。これからのさらなるご活躍を応援しています。

## 協賛企業紹介

国立妙高青少年自然の家を応援してくださる企業や団体、地元の商店の皆様には、日ごろから子供たちの活動や自然の家の活動にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

### 令和6年度

#### 【協賛金・支援金をいただいた企業等】

有限会社アークプランニング、株式会社アイデア、糸魚川市教育研究会、伊那美装株式会社、岡本石油、株式会社雲田商会、高坂防災株式会社、株式会社コハネン、酒の力ワカミ、サンヴィレッジまちだ、株式会社スワロースキー、株式会社高館組、有限会社中央モーターズ、DIPalette 上越支店、永田印刷株式会社、新潟県労働金庫新井支店、新潟サンリン株式会社上越支店、新潟みらい建設株式会社 上越営業所、株式会社西脇電気商会、日本曹達株式会社二本木工場、株式会社橋詰商会、株式会社藤田建設、株式会社丸山酒造場、有限会社安田商会、株式会社渡辺リネン

#### 【寄附物品でご支援をいただいた企業】

株式会社伊藤園、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、株式会社スノーピーク、Dancing Snow  
(50首順・令和7年2月末現在)



## 【編集後記】

最近、とある友人から「風の時代」に入ったから今までのモノや財産といった目に見える豊かさよりも、ココロの豊かさへと価値観が変化する時代が来る」と聞きました。ココロの豊かさはどこから来るのだろうかと考えたとき、それは「体験」から来るのではないだろうか。それもリアルな直接体験の積み重ねだと思っています。

今年度の取り組みで「新たな風」を吹かせたのは、チャレンジ！ICT野宿という事業です。この事業は、ICT技術をフル活用し野宿することによりリアルとデジタルを融合させ、新たな価値創造につなげていくものです。当日は風向きが悪く大雨でしたが、Society5.0時代に向けた事業提案が出来たと考えています。

また、昨年度に引き続きクラウドファンディングに挑戦しました。予算が縮減される中、計画されては流れていた幻のプロジェクトで、子供たちが主体的に活動できる広場の整備のために実施しました。79名の方々からご支援いただき、目標額を大幅に上回ることができました。妙高の光と風を感じられる活動エリアを整備してまいります。本当にありがとうございます！

「New Wind」新たな風を吹かせ、変わらない体験活動の価値を提供し続けてまいります。

国立妙高青少年自然の家  
次長 桑山 宗大

## 国立妙高青少年自然の家 SNSで情報発信中です！

国立妙高青少年自然の家では公式ホームページをはじめ、Facebook、Instagram 及び YouTube により様々な情報を発信しています。ぜひ登録、フォローをお願いします。

### 公式ホームページ

施設紹介、活動プログラム、利用料金等を紹介しています。  
<https://myoko.niye.go.jp/>



### Instagram

スタッフからの投稿でほぼ毎日更新しています。  
<https://www.instagram.com/myokoshizen/>



### Facebook

スタッフからの投稿で毎日更新しています。  
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100053854163094>



### YouTube

施設の利用方法、活動プログラムや教育事業の様子などを動画で紹介しています。  
<https://www.youtube.com/channel/UCqPHP4Vfw3nccOfutGyQtaA/featured>



## クラウドファンディング第2弾 『つるたぐりプロジェクト』について

妙高青少年自然の家が設置された平成のはじめ、ここには豊かな森が広がっていました。木々と絡み合うフジヤアケビのつる。引き寄せるとたくさんのムカゴを付けているつる。当時の職員はその「つるをたぐり」、多くの人々の協力を得ながら、子供たちの豊かな体験活動のために活動場所の開拓・整備を行ってきました。

そして令和の今、新たにつるをたぐり、未来を創る子供たちが主体性を発揮し思いっきり活動できる、使い方無限



大のフィールドの整備に再びチャレンジすることにしました。その整備費として、昨年度に続きクラウドファンディング（CAMPFIRE）に登録し、「つるたぐりプロジェクト」と銘打って広く一般から資金を募ることにしました。今回の目標額は65万円に設定。二度目チャレンジは難しいのでは？という声も聞こえる中、手探りでスタートしましたが、ふたを開けてみると79名の方々から目標額を上回る90万7千円のご支援をいただき、圧雪車に続き2年連続で目標を達成することができました。整備工事は2025年の春に施工予定です。完成後は森遊びや木登り、深雪探険などの活動や、日当たりのよいテントサイトとしての活用を計画しています。これもひとえにご支援くださった方々をはじめ、妙高青少年自然の家を応援して下さる皆様のおかげです。ありがとうございました！



本号では令和6年度に実施した事業がSDGsのどの項目に関連するか分かるようにしています。

